

日本技術士会中部本部・岐阜県支部設立大会メモ

日時：平成27年9月5日（土） 13:00～17:00

場所：岐阜大学 サテライト・キャンパス（岐阜スカイウィング37 東棟4階）

後援：岐阜大学工学部、岐阜工業高等専門学校

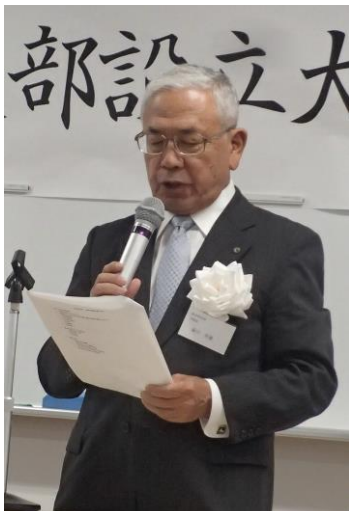
出席者：支部員24名、来賓15名、計39名

岐阜県支部設立大会 式次第

司会：副支部長 田中秀和

- 開会の辞 副支部長 田島 暎久 13:00
来賓紹介 (司会) 13:05
式辞 岐阜県支部支部長 森川 英憲 13:15
来賓祝辞 13:25
参議院議員 新妻 秀規 氏
岐阜県 商工労働部 産業技術課長 稲葉 昭夫 氏
岐阜大学工学部長 六郷 恵哲 氏
岐阜工業高等専門学校 校長 北田 敏廣 氏
公益社団法人日本技術士会 中部本部本部長 渡邊 好啓 氏
- 祝電披露（日本技術士会・会長、岐阜市長、岐阜県工業会・会長、十六銀行・頭取）
- 支部設立大会：事業計画等の報告 支部長 森川 英憲 14:00
支部役員と委員会の紹介 大谷 幹事 14:30
閉会の辞 副支部長 安田 義美 14:45
- 記念講演会 15:00～16:30
NHK岐阜放送局 局長 たけ あつ 山内 雄 敦 氏
演題：「昨今の放送事情について」
- 支部発足披露祝賀会、懇親会 17:00～19:00
於：ラ・ローゼ・プロヴァンス じゅうろくプラザ 1階
司会：副支部長 佐々木 恭助
開会の辞 中平 幹事 17:00
来賓祝辞 愛知県支部長 水野 朝夫 氏
三重県支部長 平田 賢太郎 氏
静岡県副支部長 山下 久吉 氏
乾杯の発声 士業連絡協議会 岐阜県弁護士会
会長 森 裕之 様 17:15
歓談
中締め 行政・企業技術士会代表 大日コンサルタント代表取締役社長
後藤 隆 様 18:50 閉会の辞
富田 幹事 18:55
散会

森川支部長による事業計画等の報告



事業計画を報告する森川支部長

- 本日、設立された岐阜県支部は、31年前の昭和59年に始まった「岐阜県技術士懇談会」が原点になる。以後、平成5年には「岐阜県技術士会」と名称を替えて本格的な活動が始まり、本年3月に解散して岐阜県支部に引き継がれた。
- その間の大きな活動として、地域産学官と技術士の合同セミナー（平成8年）、岐阜環境シンポ2000（平成12年）、第29回日本技術士会全国大会（平成14年）、地域産学官と技術士の合同セミナー（平成15年）、航空機産業シンポジウム（平成23年）、地域産学官と技術士の合同セミナー（平成25年）などが挙げられる。
- 岐阜県、岐阜市、大垣市など行政とその関連団体との協力関係を構築。
- 岐阜大学、岐阜高等専門学校に講師を派遣して地域の高等教育機関に協力。
- 岐阜県士業連絡協議会の会員として他の11士業と交流、協力。
- これからの事業推進方針：支部活動の活性化と認知度向上のために ①講演会活動への参加者増加、特に学生、一般からの参加を目指す。 ②地域貢献活動に積極的に取り組む。
- 基本方針：①技術士活用の促進 ②技術士の資質向上 ③支部会員数の拡大

Q&A：

Q：公益社団法人・日本技術士会中部本部岐阜県支部として法人格を持ったことにより今後は色々な業務が受注できるのか？

A：それについては、公益社団法人として、どこまで可能なのか、統括本部で検討中。

記念講演

演題 「昨今の放送事情について」

講師：NHK岐阜放送局 局長 山内 雄敦（たけあつ）氏

講師紹介：大阪市出身。昭和57年名古屋工業大学工学部電子工学科を卒業して日本放送協会に入局し松江放送局配属。その後、技術局総合運用技術部を経て平成7年にパリ支局勤務。帰国後、広報室副部長、総合企画室担当部長、編成局デジタル・サービス部担当部長、放送技術局メディア技術センター・クロスメディア部長、広島放送局技術部長を歴任した後、昨年より岐阜放送局長として岐阜市に赴任。講演内容：日本人とテレビの関係がどのように変わってきたのか、最近の調査結果を紹介。また、今、話題になっているスーパーハイビジョン放送（4K、8K）について最新の動向を概説。



講演する山内氏



第1部 「日本人とテレビ・2015」

- NHK放送文化研究所は1985年から5年毎にテレビ視聴者の動向を調査。今年の調査と5年前の2010年の調査を比較して、この5年間で日本のテレビ視聴者がどのように変わってきたのか、を見てみる。
- 視聴時間は2010年まで長時間化の傾向にあったが、今年の調査で初めて短時間化の傾向へ。「ほとんど、まったく見ない」が20～50代で増加、70代以上長時間視聴者が多く変化なし。
- 「テレビが大好き」「話題番組を見たい」などテレビ派が減少。依然として大多数がテレビを必要と感じているが、中年層では不必要と感じる人がやや増加。
- 依然として75%の人がNHKは必要と思っている。NHKの報道番組が中立・公正である、と思う人が減少。増娯楽番組に対しては好感を持つ人が増加。
- 民放を必要と思う人が減少。民放の報道番組の中立・公正性の評価が上昇。娯楽番組は逆に好感度が減少。
- 男性40代、60代で教養番組への期待が増加。
- 接触頻度は、テレビと新聞が減少する半面、録画視聴とインターネットが増加。特にインターネット接触頻度の増加が顕著。若年層は動画を見るのにテレビよりもインターネットを使う。特に20代以下は半数以上がインターネット派。
- テレビ、ラジオ、新聞、インターネット、本などメディアの機能評価では、「報道」「娯楽」「解説」の機能で依然として高評価を得ているが、「報道」機能ではこの5年で20～40代の世代がテレビからインターネットに大幅移行。

Q&A

Q：スマホがインターネットに代わりつつあるようだが、ここで示されたインターネットとはスマホも含まれるのか？

A：スマホも含まれる。若者はほとんどがスマホ。

Q：NHKの娯楽は中高年層向けが多いが番組の評価をどのようにしているのか？

A：現在を事前に番組をマスコミに見てもらい評価を頂いているが、民放で既に行われているように放送前にインターネットで見せることもあるのではないかと。米国ではNetflixによる視聴者の特性や見方などのビッグデータの活用で大ヒットした例がある。

Q：視聴者と時間帯の関係は？

A：現在は時間帯によって視聴者を決めて番組編成しているが、現在の視聴者の生活実態から鑑みると、将来はVOD（ビデオオンデマンド）が中心になる可能性が高い。NHKではいつでもどこでも見て頂くため、インターネットで放送と同じ番組を流す試行を検討しているが、著作権が問題になる。日本では放送法上インターネットも放送と同じ扱いになったが、著作権の扱いが放送と同じになっていない。簡単にインターネット放映ができないのが実態である。

Q：日本もCNNのような専門分野別放送が盛んになりそうか？

A：民放は既に行っているが、それほど伸びていない。昔、BS 1はニュースだけを24時間流す、と云う提案をしたことがある。米はケーブル・テレビが主流なので成功している。

Q：放送倫理の視点からは、テレビが世論を作る、と言われているが、このアンケートの活用方法は？

A：啓蒙活動などに役立てていきたい、と思っている。

第2部「スーパーハイビジョン放送（4K/8K）とは？ ～その最新動向について～」

- テレビ放送は高機能化と高品質化の両軸に沿って進化してきた。テレビ放送開始(1953年)から、カラー放送(1960年)、文字放送(1985年)、ハイビジョン放送(1991年)、BSデジタル放送(2000年)、データ放送(2000年)、ハイブリッドキャスト(2013年)、を経て、昨年は4K試験放送が始まり、来年には8K試験放送によって8Kが体験できるようになる。2020年の東京オリンピックでは、多くが4Kと8Kで中継放送され、これを契機にスーパーハイビジョン放送が普及することになると予測される。
- 8Kテレビは、22.2マルチチャンネルの3次元音響と広視野の高解像画質で現場にいるような臨場感・没入感や実際に物があるような実物感を再現する究極の2次元テレビ。現在のハイビジョンが2K(200万画素)に対して、4K(800万画素)、8K(3300万画素)と解像度が大幅に向上。
- スーパーハイビジョン国際規格が2012年に次のように設定された。4Kが水平画素数7680×垂直画素数4320、8Kが水平画素数3840×垂直画素数2160。ちなみに現在の2Kハイビジョンは水平画素数1920×垂直画素数1080。
- スーパーハイビジョン実用放送に向けて、まず衛星伝送路の利用が現実的であり、早急に整備されなければならない。現在の3種類の衛星だけでは伝送路が不足するため、衛星の追加で新たな伝送路が整備されねばならない。衛星伝送路には、BS左旋円偏波、BS右旋円偏波、CS左旋円偏波、CS右旋円偏波の4種類があり、今は利用していない左旋円偏波を活用してキャパシティを確保していく方針である。

Q&A

Q：東京オリンピックのスーパーハイビジョン中継放送は、単に見るテレビから参加型になるとのことだが、それはそのようにするのか？

A：スーパーハイビジョンの特徴を活用した臨場感を如何にだすか、アイデアを練っている。例えばハイブリッドキャストを利用したSNS系などを取り入れることなどが考えられる。

Q：ハイブリッドキャストとの融合は？

A：例えば、ハイブリッドキャストの機能にマルチカメラを入れると、視聴者が見たい箇所を選択して見ることができるようになり、視聴者が画面をコントロールできる。



以上 田島 記



来賓席 前列左から北田・岐阜高専校長、六郷・岐大工学部長、
稲葉・岐阜県商工労働部産業技術課長、新妻参議院議員



来賓席 前列左から 安江・大垣共立銀行支店部情報渉外課長、渡邊・中部本部長

社団法人 日本技術士会中部本部

岐阜県支部設立大会



来賓祝辞: 新妻参議院議員



会場風景



来賓祝辞: 岐阜県商工労働部の稲葉氏



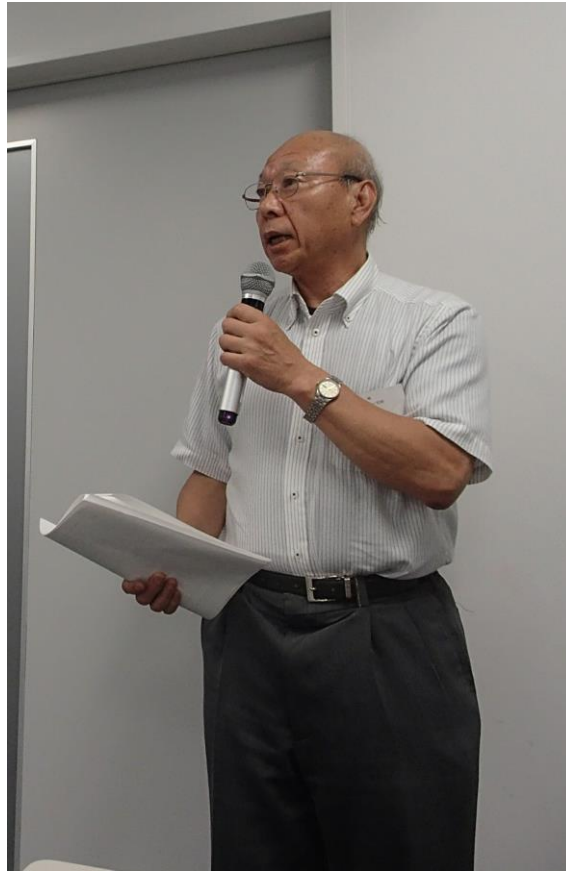
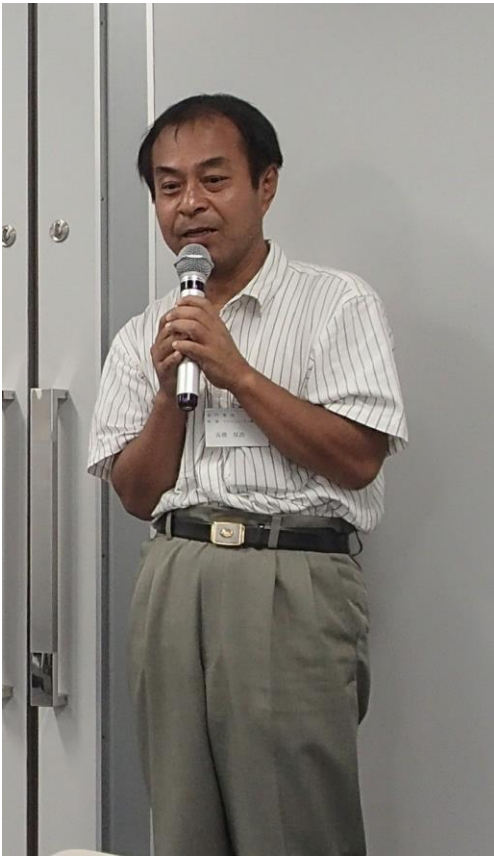
来賓祝辞: 岐阜大学 六郷工学部長



来賓祝辞: 岐阜工業高等専門学校 北田校長



来賓祝辞: 渡邊中部本部長



支部役員紹介で挨拶する高橋氏(左)と中平氏



支部役員紹介で挨拶する高木氏(左)と渡邊氏



懇親会で挨拶する山下・静岡県支部長



懇親会で挨拶する森・岐阜県弁護士会会長



懇親会で懇談する(右から)十六銀行の田代氏、大垣共立銀行の下條氏、荻須会員



懇親会で懇談する会員諸氏



懇親会「中締め」で挨拶する後藤・大日コンサルタント社長